

平成25年12月 経営協議会議事録

I. 日 時 平成25年12月13日（金） 14時00分～16時15分

II. 場 所 けやき会館レセプションホール（3階）

III. 出席者 齋藤学長、赤田、有馬、犬養、黒木、島田、船橋、
山本、長澤、徳久、嶋津、池田、北村、木庭、宮崎各委員
（欠席：井上、加賀見、佐久間、桜田、堀各委員）

陪席者 来栖監事

IV. 前回及び前々回経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

V. 審議事項（○：学外委員、◎：学内委員）

1. 平成25年第一次補正予算（案）について

学長から、平成25年第一次補正予算（案）について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

2. 重要な財産の譲渡について

学長から、重要な財産の譲渡について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

○ 譲渡代金は大学として何らかの用途に充てることはできるのか。また、隧道部分の区分地上権を設定するということは、これから地代をもらえるのか。

◎ 隧道部分の区分地上権設定の対価は、1億5千万円程度と見込んでいる。隧道入口部分と道路拡幅部分の譲渡の対価は、国立大学財務・経営センターへの納付額を控除し、4千万円程度と見込んでいる。いずれにしても、政府の予算措置次第なので、結果については、改めて経営協議会でご報告したい。

3. 中期目標・中期計画の変更について

学長から、中期目標・中期計画の変更について審議願いたい旨提案があった後、山本理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

○ なぜ今まで法政経学部にしなかったのか。政治学が埋もれていた感じがする。

◎ 30年前に人文学部が文学部と法経学部に分かれたとき以来、学部名は法経学部となり、その後見直しの議論などが起こらなかった。この度、現在の社会情勢等を踏まえて改組を行い、2年次から法学コース、経済学コース、経営・会計系コース、政治学・政策学コースを選択する仕組みとした。

○ 融合科学研究科とは、どういう性格の研究科なのか。

◎ 主に工学部と理学部の教員で組織されている。設置からまだ6年目のため発展途上ではあるが、特徴ある取組みとして外部から高く評価されている。

VI. 報告事項（○：学外委員、◎：学内委員）

1. 学長選考結果について

有馬委員（学長選考会議議長）から、学長選考結果について、資料に基づき報告があった。

2. 国立大学改革プランについて

池田理事から、国立大学改革プランについて、資料に基づき報告があった。

- 国立大学法人にとって一番大事な時期をむかえており、新学長に期待するところが大きい。思い切った決断により、改革を進め、予算の獲得に努力してもらいたい。大学の内部からの抵抗も多く、政治家や経済人は効率主義から改革を迫っているが、大学の本来の機能を考え、大学の良いところは必ず残さなければならないし、そういう立場で改革を進めるべきだと考えている。
- 年俸制の教職員を10パーセント以上にするのは予算の面でも簡単ではない。例えば今まで文科省が負担していた退職金はどうなるのか。
- ◎ 今まで退職金は運営費交付金の外枠で措置されていたが、今後どのようなのかについては、文科省は明確な説明を避けており、各大学も年俸制の導入が加速できない状況である。本学はすでに一部について年俸制を導入しているところだが、予算獲得の手立てになるところもあり、今後も引き続き検討を進めていく必要があると考えている。
- 年俸制は千葉大学だけの問題ではなく、国立大学協会がきちんと国に対して要求すべき問題である。任期制や年俸制は簡単に移行できるものではない。
- ◎ 年俸制は外国人教員や若手教員の採用などにおいてメリットがある制度だが、一方で、国家公務員の退職金を期待している教員も多くいる状況であり、全体の制度設計や、予算の財源の議論などが先にあるべきである。
- 資料には混合給与について記載があるが、外国の大学の教員を一定期間千葉大学で勤務してもらおうとして、給与はエフォートに応じて何割か支払うという形であれば導入しやすいと思われる。また、複数の大学で給与をエフォートに応じて負担するという契約を導入するというのであれば、年俸制においても取組みやすいのではないか。
- ◎ 給与の話だけでなく、保険や年金などをどう取り扱うかといった細かいところも問題となっている大学もある。国が、しっかりと制度設計したり導入例を示したりしないとなかなか導入が困難である。
- 今後、10年で世界大学ランキングのトップ100に10校入るという目標は非現実的。実際、千葉大学はどのくらいの位置づけなのか。
- ◎ 千葉大学は順位が明示される200位に入っておらずランク外なので、今後10年でトップ100に入るには、10年という時間のなかで、ねらいに行くならば、それなりの個別具体の戦略を立てていく必要がある。
- 大学の役割はこのランキングに入ることではない。本来課されたミッションを重視すべきである。

3. 平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

山本理事から、平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について、資料に基づき報告があった。

4. 平成25年司法試験の結果について

長澤理事から、平成25年司法試験の結果について、資料に基づき報告があった。

○ 千葉大学は未修の合格率が第一位だが何か理由があるのか。

◎ 学生数が少なく、いつも一緒に団結して、24時間勉強できる体制ができていることや、専門に進んだ2年目以降に、比較的基礎的な学習を再度行っていることが成功の要因だと考えている。他のロースクールは、既修者にあわせて先端的な内容に取り組む傾向があるようで、そうすると未修者には難しくなってしまう。

5. 研究大学強化促進事業の審査結果について

徳久理事から、研究大学強化促進事業の審査結果について、資料に基づき報告があった。

○ ヒアリングに呼ばれた大学は客観的な指標で選ばれており、大学規模が除外されていたため、小さな大学もいくつか選ばれる結果となった。URAの推進を主目的とした事業であり、この事業に不採択となったことで、千葉大学が研究大学ではないということではない。

6. 国立大学法人千葉大学助成団体等助成金取扱規程の制定等について

徳久理事から、国立大学法人千葉大学助成団体等助成金取扱規程の制定等について、資料に基づき報告があった。

7. 平成25年度科研費（補助金分・基金分）の配分について

徳久理事から、平成25年度科研費（補助金分・基金分）の配分について、資料に基づき報告があった。

8. 学内施設の整備状況について

施設環境部長から、学内施設の整備状況について、資料に基づき報告があった。

9. その他

(1) 教育再生実行会議委員による本学視察について

山本理事から、教育再生実行会議委員による本学視察について、資料に基づき報告があった。

以上